

# 3号機廃棄物地下貯蔵建屋 CUW廃樹脂貯蔵タンク接続配管からの 漏えいについて

2020年9月24日

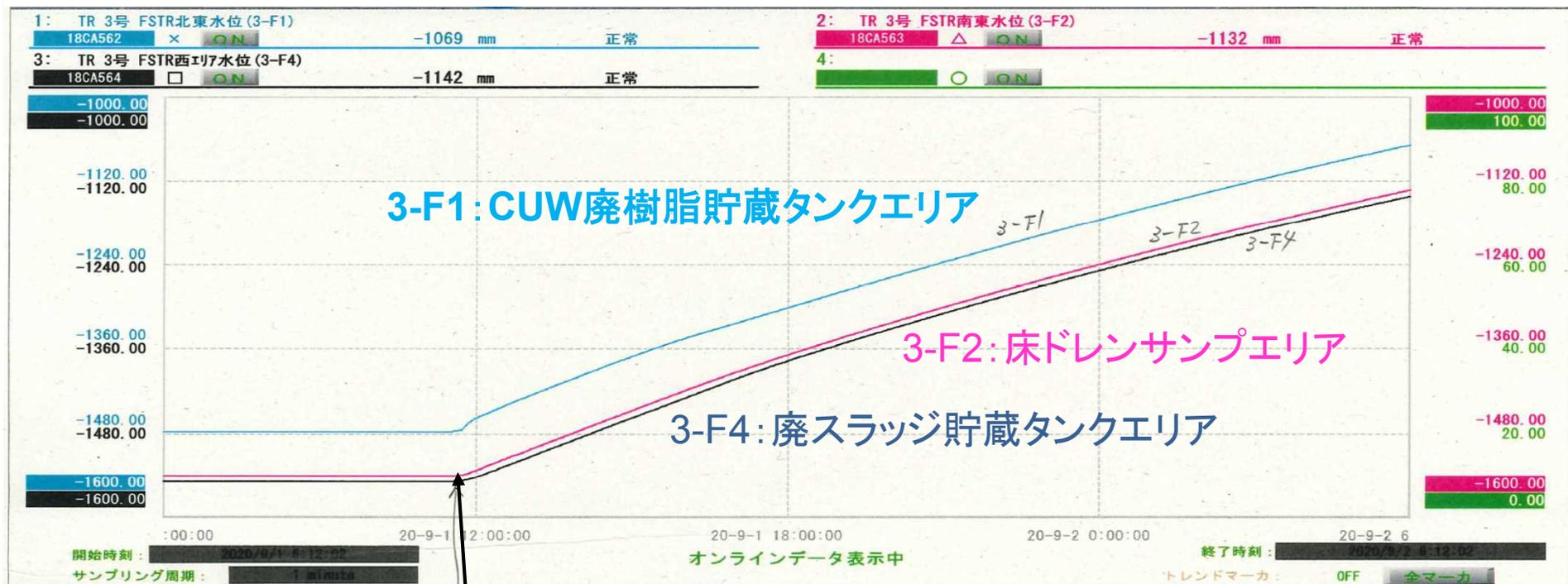
**TEPCO**

---

東京電力ホールディングス株式会社

# 1. 事象の概要

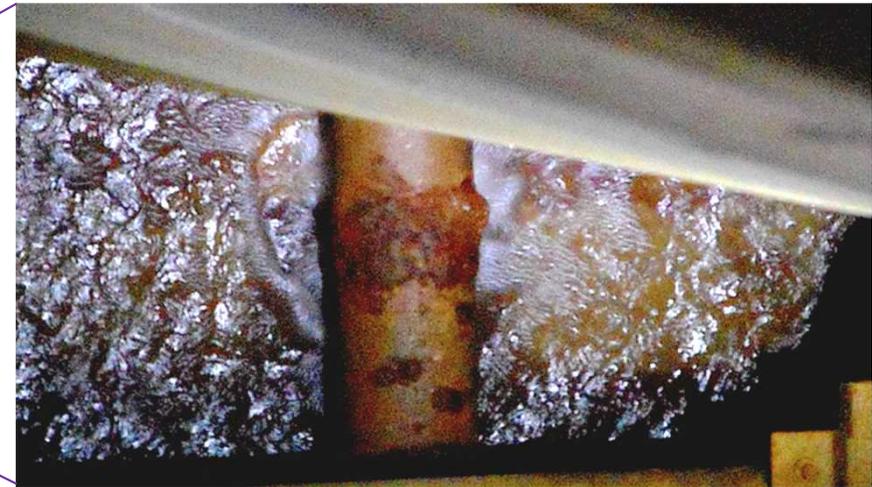
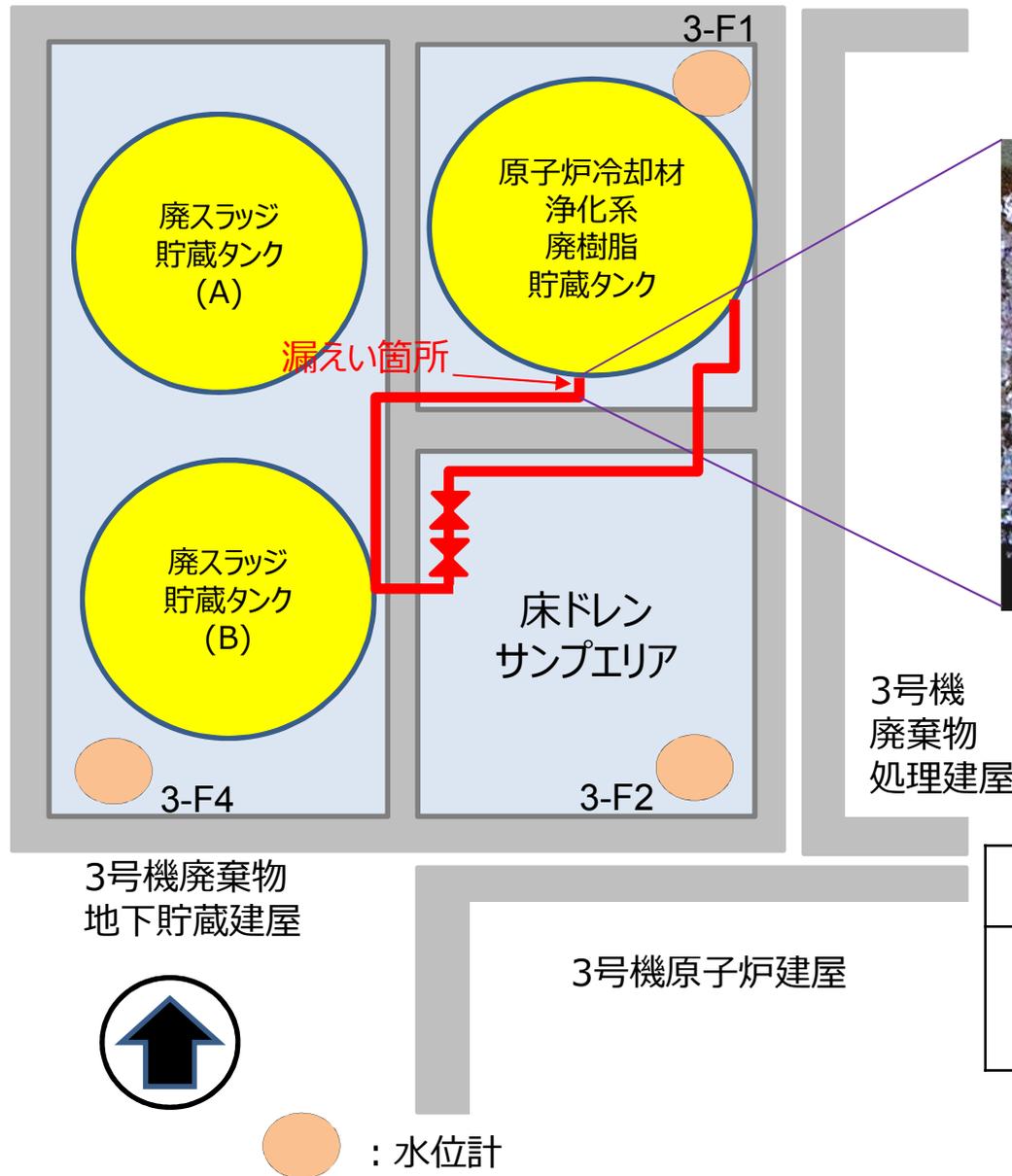
- 2020年9月1日 3号機廃棄物地下貯蔵建屋（以下：当該FSTR建屋）地下階の建屋内溜まり水の水位が上昇していることを、当社運転員が確認。
- その後の現場確認の結果、原子炉冷却材浄化系廃樹脂貯蔵タンク（以下：CUW廃樹脂貯蔵タンク※）に接続する配管から廃液が漏えいしていることを確認（漏えい水の採取も実施）。
- 漏えい廃液が溜まった部分は外部との連通がないこと、当該FSTR建屋周辺サブドレンの水位より十分に低いことから、漏えいした廃液は当該FSTR建屋内に留まっているものとする。また、当該FSTR建屋付近のサブドレンNo.37の放射能濃度に有意な変動がないことを確認している。



9 / 1 11:50  
水位上昇開始

※ CUW系のろ過脱塩器で使用する粉末状の樹脂が、使用後に廃樹脂として送られ、貯蔵するためのタンク。なお、CUW系は震災後未使用。

## 2. CUW廃樹脂貯蔵タンク接続配管の漏えい状況について



【漏えい箇所】  
漏えい量：約80m<sup>3</sup>

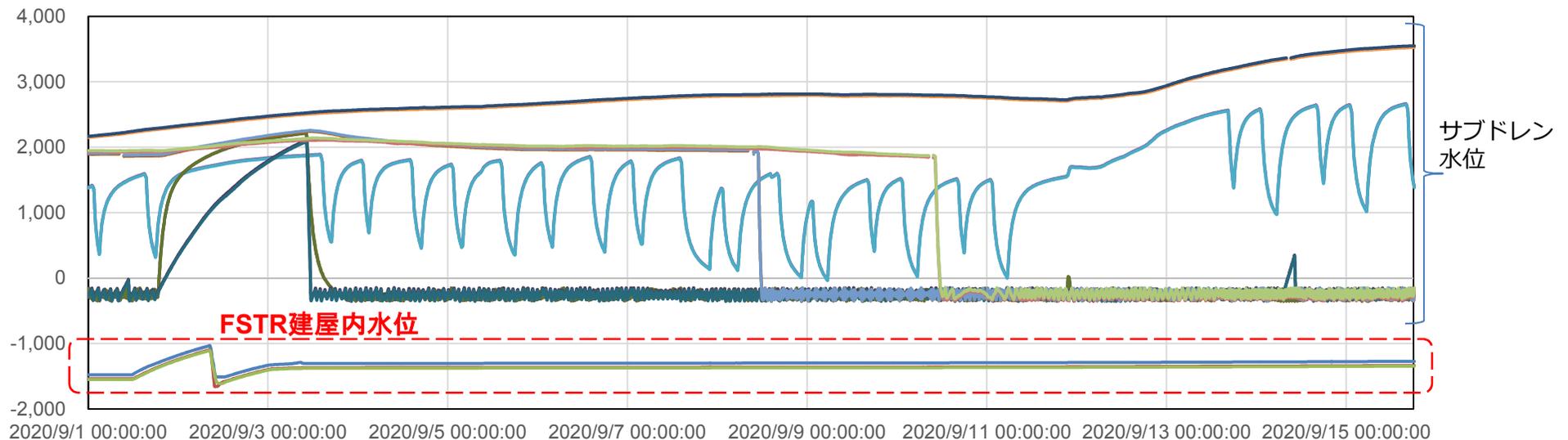
2020年9月1日採取			Bq/L
Cs-134	Cs-137	Co-60	全β
検出限界未満 ( $< 2.6 \times 10^2$ )	$9.9 \times 10^4$	$6.7 \times 10^4$	$1.8 \times 10^5$

### 3. 対応状況について

- 9月1日、当該FSTR建屋周辺のサブドレンを停止（18:46）。
- 9月2日、当該FSTR建屋地下階の漏えい廃液を3号機廃棄物処理建屋地下階へ仮設ポンプにて移送（8:40～10:00）。
- 9月3日、当該FSTR建屋内の水位が安定し、周辺サブドレンとの水位差が十分確保できる状態となったことから、停止していたサブドレンのくみ上げを開始（10:24）。その後現場確認をした結果、漏えいしていた配管からの漏えいがないことを確認（14:28）。
- 9月10日、現場調査を実施（状況については次頁以降参照）

3号FSTRおよび周辺サブドレン水位

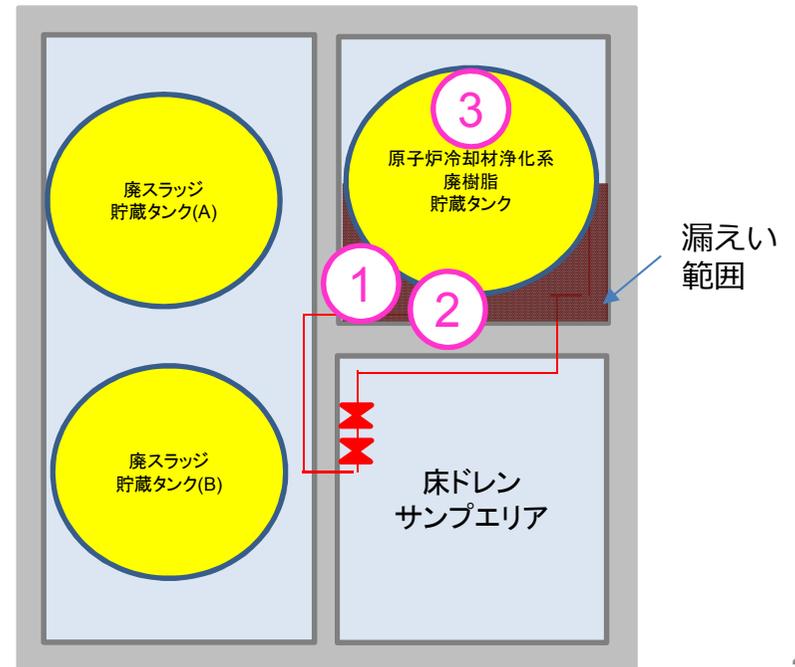
単位：T.P.mm



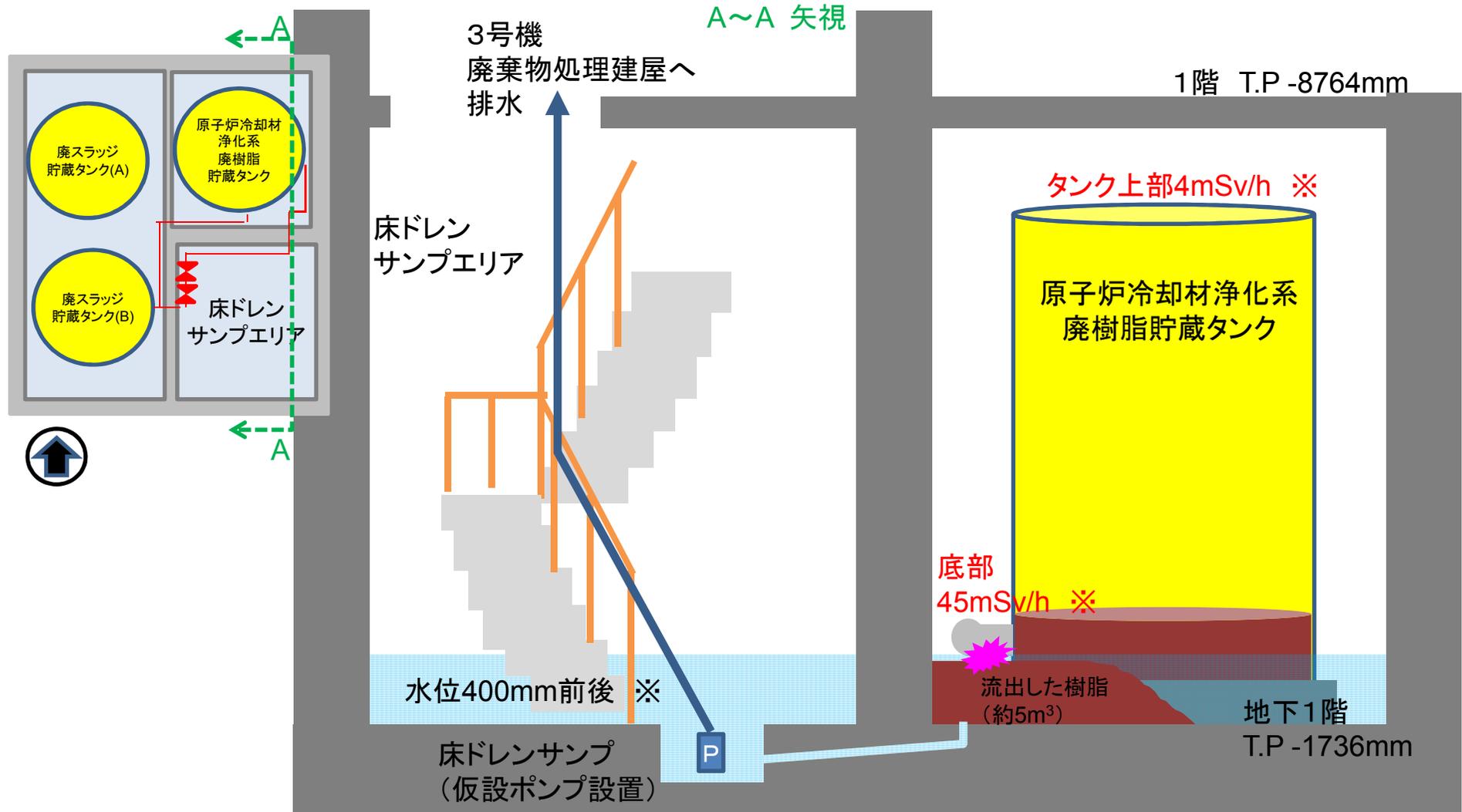
FSTR水位（9/15 0時現在）  
北東エリア（3-F1）：T.P -1277mm

周辺サブドレン設定値（9/15現在）  
H値：T.P -150mm L値：T.P -350mm

# 4. 現場の状況 (9/10確認)



# 4. 現場の状況 (イメージ)



※ 9月10日現在

## 5. 他号機FSTR建屋内タンクについて

まずは、周辺サブドレン水位を低下させており、本設の移送ポンプが設置されていない1～4号機のFSTR建屋について、以下の通り調査を実施した。

設置場所	機器名称	タンク容量 (m <sup>3</sup> )	貯蔵量※ (m <sup>3</sup> )	タンク 材質	タンク下部 接続配管 材質	備考
1・2号機	廃スラッジ貯蔵タンク	840	約540	SUS	SUS	
	廃樹脂貯蔵タンク	310	約280	SUS	SUS	
2号機	廃スラッジ貯蔵タンク	500	約440	SUS	SUS	
	廃樹脂貯蔵タンク	200	約170	SUS	SUS	
3号機 (旧FSTR)	原子炉冷却材浄化系廃樹脂貯蔵タンク	120	約90	SUS	STPG38	配管漏えい (本事象)
	廃スラッジ貯蔵タンク (A)	100	約7	SUS	STPG38	タンク 変形あり
	廃スラッジ貯蔵タンク (B)	100	約80	SUS	STPG38	半分程度スラッジ
3号機 (増設FSTR)	廃スラッジ貯蔵タンク	300	約250	SUS	SUS	
	廃樹脂貯蔵タンク	140	約90	SUS	SUS	
4号機	廃スラッジ貯蔵タンク	320	約130	SUS	SUS	
	使用済樹脂貯蔵タンク	160	0	SUS	SUS	

タンク下部の接続配管が炭素鋼であった箇所は、今回事象と同じ建屋内の廃スラッジ貯蔵タンク (A)および (B) であり、タンク (B) については内包量が多く、今回と同様の事象発生の可能性は否定できない。

※ 震災以前の運転日誌で確認できた範囲で整理したもの

### 残水の移送

- 現状は水位があり樹脂に水分が含まれているが、残水の移送により樹脂に含まれる水分量も減少することから樹脂回収への影響の有無を9月中に整理し、10月上旬を目途に移送を行う予定。

### 樹脂の回収

- 作業環境(高線量及び機器等が輻輳している現場状況)を踏まえ、回収方法や時期について検討していく。

### 他号機への展開

- 今回と同事象の発生が考えられる3号機廃スラッジ貯蔵タンク(B)について、調査のうえ対策を行う。またその他樹脂・スラッジを貯蔵する容器についても、現状を整理し、影響に応じた今後の対応を検討する。

(参考) 周辺サブドレンの状況

サブドレンピットNo.37										単位 : Bq/L
	2020/6/3	2020/6/17	2020/7/1	2020/7/15	2020/7/29	2020/8/12	2020/8/28	2020/9/1	2020/9/4	2020/9/11
Cs-134	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
Cs-137	ND	ND	ND	7.1E+00	ND	ND	ND	ND	ND	ND
全-β	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

